

五島市図書館友の会だより

第14号(2019.6月)

発行者 五島市図書館友の会

「本」とは何か？

五島市図書館友の会会員であり、市議会議員を勤められていた野口善朗氏が逝去されたことは皆様の記憶に新しいところと思います。野口氏は前号で五島市が進めている新図書館建設のことに触れ、読書の必要性を訴えておられます。このたびご遺族より図書館に、図書購入費にと御寄付を頂きました。その志に沿うべく職員一同、新図書館への思いを新たにしているところです。

そこで今回は、その野口氏のバトンを受け、私たちと本の関係について活字媒体の立場から少し考えてみたいと思います。



現代ほど本の必要性が問われている時代はないでしょう。情報伝達技術の圧倒的な発達により、書店や図書館へ行かずとも私たちは欲する情報をインターネットで得ることができるからです。その便利さからは逃れがたく、もはや生活に不可欠です。そればかりか私たちの生活までもが電子化されつつあります。使い方さえ誤らなければ、これほど有難い手段はないかもしれません。一方、情報を得るそのプロセスはあまりに直線的で、私たちは迷ったり考えたりする暇を与えてはもらえません。

ここで改めて思うことは、本（紙媒体）は必要である、ということです。インターネット上に溢れかえっている情報は膨大で、そこでは情報を適切に判断する能力を問われますが、その情報を司る主体はありません。ただし、それが本であれば著者という主体があり、読み手という客体が生まれます。しかも、印刷された「本」というパッケージがなされており、私たちはその情報を可視化することができるうえ、読後感を定着させることもできます。電子ではなくモノである「本」ならではの関係性でしょう。

私がこれまで出会った本のなかで、とりわけ再読を繰り返しているのが『存在の耐えられない軽さ』という旧チェコスロヴァキア出身の作家ミラン・クンデラが発表した作品です。

この作品のなかで「私にとって小説は、もうひとつの私自身の可能性である」という意味のことが書かれています。前後の文脈を含めると、もう少し複雑なことを語り手は伝えようとしているのですが、この一文のみ抜き出して吟味してみても、とても興味深い解釈ができるように思えます。例えば絵本や童話、もしくはミステリーや文学作品などを読むとき、読者は物語のなかで自身の心象を投影し、もしかしたら自分（＝冒険家、シンデレラ、探偵、殺人鬼）かもしれない可能性を読んでいることになります。今の自分とは別の生き方を体験できるわけですから、こんなに面白いことはありません。それになぞらえると、「私自身の可能性」を読めるのは何も物語の類に限ったことではないのかもしれませんが。例として実用的な本を手にとるとき、料理本であれば「こんな素敵な食事をつくりたい」、DIYの本だと「モノ作りに挑戦したい」、ビジネス本であれば「スキルアップに役立ちそうだ」など、読者は自身の生活を彩ったり変化を求めたりしています。つまり、それらの本を手にとることで多少なりとも幸福を希求し、その可能性を読んでいることになります。その意味において、本はジャンルを問わず、読み手にとってのフィクションが入り込む余地がいくらか秘められています。それは「本」対「人」との関係であり、その欲求と好奇心が私たちに本を手にとらせるのだと思います。

グーテンベルクが活版印刷を発明して以降、本は人類とともに歴史を形作ってきたわけですが、先人達が遺してくれた土壌のうえに私たちは位置づけられており、実利的な用途以上のものを本から得ているようです。パソコンやスマホに向かって情報を切りとるだけでなく、本に向きあって時間と空間を感じるひとときも大事にしたいものです。

（リレーエッセイ 13）

大坪 昇平（五島市立図書館司書）



「古本まつり」を振り返って。

スーパーでこのポスター見かけました？

数えて5回目を迎えた図書館友の会主催の

「古本まつり」の備忘録を含め裏側を少しお話しします。



第1回平成27年4月25日 提供本；2500冊 販売；約1500冊 来場者；150人

第2回平成28年4月24日 提供本；3000冊 来場者；200人

収益金の内17、245円を熊本地震義援金へ 海陽高校ボランティア；19名

第3回平成29年5月28日 提供本：約6,400冊 販売数：3,900冊 来場者：約290人

第4回 平成30年5月12日 提供本：2500冊 販売：1700冊 来場者：300人

第5回の前準備

集本の心配：前回で在庫本が無くなってしまい、0冊からの本集め・・・集まらなかったらどうしよう？

宣伝(ケーブルテレビまる五島スポット出演・五島広報誌)とポスター(集本と本番用)を館内・市役所・ツバキヤ大津、松山・大波止ターミナル・エレナ・とれとれ五島・シティーモール・丸八・バリュー・振興局・緑ヶ丘公民館・中央病院以上の場所に掲示をし約3000冊の集本ができました。

当日の手伝い依頼；社協様に依頼 2名参加

準備日(本の仕分・分別)作業を5/8日.15日.24日(前日)10時～12時 延べ人数20名

後は当日を迎えるのみですが・・・天候の心配：有料本の販売は館外しかできない、玄

関前に陳列台を設けているので雨が降らないことを願う。



第5回 平成31年度5月25日

提供冊数：約3000冊 販売数：2200冊 来場者：約300人

当日は8：30 要員集合・9名 10時開場 開場前から30人ほどの行列ができていたので開場の時の案内をした。

今回から横断幕を玄関に表示することで友の会をアピールできた。

5回目ともなるとお客様も慣れてきて、以前は最初無料本に人だかりが出来ていたが、最近はまず有料本をしっかりとキープした後、ゆっくりと無料コーナーにと流れていかれていました。

午前中は混雑するも、午後からは前回より少ない（当日に他のイベントと重なった？）

反省会5月31日

- ・ 古い絵本の取り扱い・お客様が本をよく知っていた。・実用書場所はどこがいいか？
- ・ 販売スペースの取り方・人の流れを考える・午前と午後2回に分けて販売しては？
- ・ 会計の場所・販売価格を再考（前回の半分の売り上げ）
- ・ 収益金の一部を〇〇基金（特別会計）とし、新図書館への補完に充ててはどうか？
- ・ 今後の開催に向け貴重な意見がだされました。

五島市図書館友の会主催の「古本まつり」も今回で5回目、だんだんと認知度も高くなり市民権を得てきています。これからも皆様の期待に副うべく素晴らしいまつりを提供したいものです。

古賀義和

アートの広場 展示紹介

図書館友の会では1階～2階階段の展示コーナーに「アートの広場」として掲示を協力しています。その時の課題や趣味の書・絵画・俳句など市民の皆様にご協力いただき2ヶ月交替で、図書館休館日に作業をしています。展示をしてくださる方を募集しています。図書館(72-6900)か役員・市川(090-9723-8793)まで



令和元年5月～6月

「ミニミニ絵画展」 山本 隆 画

画像は五島市立図書館ホームページより

五島市立新図書館建設工事に伴う基本設計ワークショップに参加して

ワークショップは、色々な立場の方の参加で行われると知り、沢山の意見が聞ける楽しさと、どんな方が参加するのだろうとワクワク、ドキドキ緊張しながら参加した。第一回「あなたの考える理想の図書館」第二回「あなたの考える広場・駐車場」第三回「未来の図書館 VR 体験会」をテーマにワークショップが行われた。私は新図書館への想いを「今、ここで声に出さなければ」と、図書館ボランティア活動の立場から、感じた事を発言させてもらった。中学生・高校生の若い方ならではの素敵な意見も聞けたし、自分が気づかない事の意味もあり、同意したり、感心したり、納得したり、有意義な時間だった。第一回は「いろんな人や情報と出会い、つながり・交流できる『五島市の知の拠点』」に意見がまとまった。

第二回は「安全で、賑わいのあるみんなの憩いの空間づくり」の実現にまとまった。ただ、せっかくの新図書館のワークショップなのに、参加者が少なく、もっと沢山の人の意見が聞けたらと残念に思った。第三回目「未来の図書館 VR 体験会」の時は第一回・第二回で出た意見を取り入れた、図面や3D立体映像を基に、ワークショップを行った。意見が形になっていく喜びと、実際に建物の中を歩いている様で、感動した。「こんな新図書館が建ったら、なんて素敵だろう」「誰でも自由に、ゆったりと利用できる図書館が欲しい」と思った。

新図書館に対して、みんな想いもそれぞれ違いうだろうが、五島市の拠点となるよう市民みんなで、盛り立てていけたらと思う。

市川 和枝



読書会」のご案内

同じ本を読み、自由に感想を話し合います。本は図書館にあります。

『老いること暮らすこと』平岩 弓枝（著）

7月17日（水）午前10:00～

—「五島市図書館友の会員」以外でも参加可能—



第4回ミニ学習会

7月31日（水）休館日10時からの展示作業終了後（約11時頃から）

図書館1階

テーマ：カネミ油症を学ぼう

講師：旭梶山 英臣さん（カネミ油症被害者の会会長）

展示や、簡単な作業をします

7月31日（水）／8月31日（土）／10月1日（火）

毎月、図書館休館日：午前10:00～

■今年度会費未納の方は会費をお納めください。

■図書館友の会ホームページ <https://gototosyokantomo.jimdo.com/>
ご意見をお待ちしています（担当：古賀）

編集後記

リレーエッセイで大坪さんも述べられていますが、約3ヶ月前、野口善朗さんが亡くなりました。言葉を失する、ということはこういう事なのか。

11年前、市の職員で在られた時「子どもの本ネットワーク協議会」設立の時に
ご尽力いただきました。古本まつりでは本を提供してくださいました。市議会
では新図書館建設について一般質問をされました。また、ある時「もっともっ
と、たくさんの方が市会議員に立候補して市議会を強くしていかないかん」と
語っておられました。「大きい方だなあ！」と思いました。
心よりご冥福をお祈りします。

KS